

授業概要

東南アジアは、隣接するインドや中国との間に古代から活発な交易が行われ、それぞれの文明を摂取して独自の世界を形成した。時と空間を経てそれぞれの地で変容をとげた東南アジア文化について講義する。

授業計画

第1回	「東南アジア」とは
第2回	海上交易
第3回	ヒンドゥー文明の伝播
第4回	「王権」思想の伝播
第5回	インド文化の影響（アンコール朝）
第6回	仏教の伝播
第7回	ヒンドゥー教と仏教の混淆
第8回	ムラカの成立とムラユ世界の形成
第9回	島嶼部の「イスラーム化」
第10回	マタラム王国
第11回	アジアの大航海時代
第12回	海峡の分断
第13回	白人の責務
第14回	人の移動
第15回	複合社会
第16回	筆記試験

到達目標

東南アジア史に関する基礎的な歴史知識を習得する。歴史の流れの中で、西アジア、南アジア、東南アジア、東アジア地域がどのように接触し、共存してきたか。また東南アジアは、世界史にどのような影響を与えてきたのか、その意義を理解する。

履修上の注意

東洋史概説の履修者がのぞましい。

予習復習

シラバスに従って基本的な知識を予習しておくこと。講義後は、配布されたプリントと参考文献などを読んで知識を深めておくこと。

評価方法

授業中の態度、授業後に回収するリアクショペーパーの内容が50%、学期末の筆記試験50%として総合的に評価する。

テキスト

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。